

日本人の3大疾病を見てみよう

人口動態統計という統計資料があります。厚生労働省が日本人の出生率や死因を全国的に調査している、貴重な資料です。毎年6月頃に、一昨年の集計結果が発表されます。ちなみに、平成18年度の出生数は109万2,674人で、前年の106万2,530人より3万144人増加。統計から6年ぶりに増加したことがわかります。死亡数は108万4,450人で、前年の108万3,796人より654人増加しています。

日本人の死因トップは「がん」ですが、以下、10位までは、心臓血管疾患、脳卒中、肺炎、不慮の事故、自殺、老衰、腎不全、肝疾患、慢性閉塞性肺疾患と続きます。

人口動態総覧には平均発生間隔という面白いデータも出てきます。以下、実際の表を示します。日本の状況を読んでみてください。

人口動態総覧（厚生労働省）

	実数			率 ¹⁾		平均発生間隔			
	平成18年	平成17年	対前年増減	平成18年	平成17年	平成18年		平成17年	
						分	秒	分	秒
出生	1 092 674	1 062 530	30 144	8.7	8.4		29''		30''
男	560 439	545 032	15 407	9.1	8.8		56''		58''
女	532 235	517 498	14 737	8.2	8.0		59''	1'	1''
死亡	1 084 450	1 083 796	654	8.6	8.6		29''		29''
男	581 370	584 970	△3 600	9.4	9.5		54''		54''
女	503 080	498 826	4 254	7.8	7.7	1'	3''	1'	3''
(再掲)									
乳児死亡	2 864	2 958	△94	2.6	2.8	183'	31''	177'	41''
新生児死亡	1 444	1 510	△66	1.3	1.4	363'	59''	348'	5''
自然増加	8 224	△21 266	29 490	0.1	△0.2	
死産	30 911	31 818	△907	27.5	29.1	17'	0''	16'	31''
自然死産	13 424	13 502	△78	11.9	12.3	39'	9''	38'	56''
人工死産	17 487	18 316	△829	15.6	16.7	30'	3''	28'	42''
周産期死亡	5 100	5 149	△49	4.7	4.8	103'	4''	102'	5''
妊娠満22週以後の死産	4 047	4 058	△11	3.7	3.8	129'	52''	129'	31''
早期新生児死亡	1 053	1 091	△38	1.0	1.0	499'	9''	481'	46''
婚姻	730 971	714 265	16 706	5.8	5.7		43''		44''
離婚	257 475	261 917	△4 442	2.04	2.08	2'	2''	2'	0''

さて、この中で、特に死因のトップ3疾病をピックアップした展覧会が全国主要都市で開催されました。会員の中でも多くの皆さんがご覧になったことでしょう。今回は、その3大疾病点の見学記を、会員の山本百合子さんが寄稿してくださいました。ぜひ、当時の感動をご一緒に思い出してください。ご覧になっていない方は、同じ内容の書籍が発売されています。（今回の素敵なBOOKSでもご総会しています）。

一言で感想を言うと
病気のホンモノを
見てしまった。
触ってしまった。

by 山本百合子



東京（池袋サンシャイン 60）で開催された、三大疾病展へ行ってきました。東京の後には、名古屋、大阪など地方を回るそうなので、ご覧になるチャンスのある方もいらっしゃるかもしれません。結構感動したので、ご報告しますね。

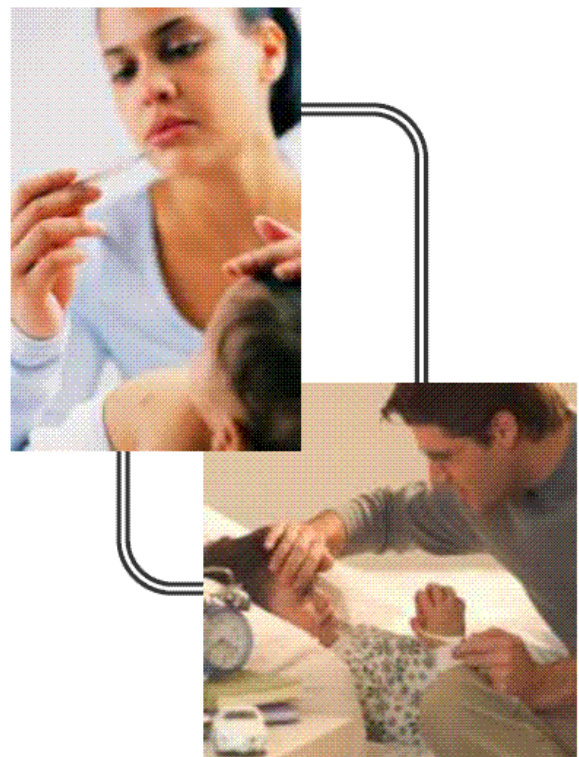
さて「病（やまい）」といわれると、私たち一般人にとっては、突然の高熱に見舞われるインフルエンザだったり、家族の長期入院であったり、あるいはドラマや本で見る死にゆく少女の物語だったり・・・しますよね。

自分のインフルエンザについて、身体の中で何がどうなっていて熱が出るかなんて、自分には見えません。

家族の病気だって、本人に何が起きているのかは医師の言葉から推測するしかありません。本人との関係にもよりますが、親戚には詳しい状態も知らされず、入院だ、手術だっていう結果が届くばかりです。

物語やドラマに至っては、その時は胸を締め付けられるような感情になりますが、でも、主人公の病気や死因がどういう機序によって起きているのかなどは表現されないことが多く、ストーリーとしての「はかない命」の部分しか理解することはできません。

「がん」というのは何なのか。なぜ、この間、宴会でいっしょにビールを乾杯した綺麗なひとが、もう二度と夜遊びに現れる事が無いのか。あのきれいな頬の下に、本当は何があったのか、実際には見た事がありませんでした。今回の「3大疾病展」という展覧会に展示されてたのは、そういったものでした。



先ず、入り口を入ると真っ赤に光る何百本ものペットボトル。 ??? 何？
それは人間の心臓が送り出している血液の量。
毎日毎日、私が死ぬまで一分たりとも休まずに動き続ける心臓。その心臓から体中にこんなにたくさんの血液が送り出されているのね。
そして、透明なトルソー（頭や手足のない胴体だけの彫像）。中には疾患を持った臓器が透けて見えています。これが、三大疾病！
どれもいきなり、インパクトがあります。

パネルにはいろんな最新の医療情報が掲載されていましたが、その他にもいろんなホンモノが掲示されていました。

腹腔内視鏡のシミュレーションゲーム？ 乳がんを触って見る模型、実物大臓器パズル？
メタボ検診な～んて、思わず目をそらしたくなるイベントもありました。

もひとつ、見なかったコトにしよーっと思ったのは、実物大の「脂肪」の模型。
「持ってみてください」と、書いてあります。コワすぎ～。こっ、これ、お家の玄関に飾っておいたらどうだろう（汗・汗 ^-^;）



最初はこんなノリで、ブラブラと散策をするつもりでした。だって、リュウ（瘤）だのカイリ（解離）だのって、私にはゲームのキャラにしか思えないっ！な～んて、思っていたのです。でも、その展示品の迫力に、だんだん引き込まれていきました。
やはり、PCの画面と違って、立体物としてあるのは侵しがたいリアリティに満ちています。



薄切りにされた脳の標本、さまざまな疾患を患った、それぞれの臓器の標本、それらを顕微鏡で見られるようになっていました。

透明なプラスチックを通して見える、色々な病気にみまわれた、たくさんの臓器。
この血管を体内に秘めて物を考えていた人は、もうこの世にいないのだろう。
この胃で、どんなご馳走を味わったのか。
この心臓は何にときめいたのか。。。
持ち主の魂は既にここには無いのに、永遠に保存される肉体の一部たち。



そして、人間の命を奪うもの。3大疾病という敵が、展示室中にこうして姿を晒している。敵の名前は、「がん」「心臓病」「脳卒中」。その細かな仕組みや、問題の起こり方がパネルや「実物」を使って展示されているのです。私の体の中にある健康な臓器が、こんな事になってしまうのか。。。
それも、突然、噴火する？
生存率などのデータ。何度も言われて誰でも知っているけれど、「早期発見」が必要だってこと、それが手に取るように分かります。こんなになってしまっって発見されると、小さな状態で見つけるのと、その意味の違い。

・・ということは、それに屈しない方策もあるのかもしれない。とか、歩きながら、だんだん真剣に考えてしまいました。

全体の展示内容は、おおまかには以下のようになっていました。

■がん

日本人に多い、胃・大腸・肺・肝臓・乳・子宮前立腺の7大がんに焦点を絞り、その発生から診断、治療、予後、緩和ケアなど、全体的な観点から解説がされていました（下のパネル）

■心臓病・脳卒中

別コーナーとして、虚血性心疾患、不整脈、血管病、脳卒中などを中心に、やはりその発生、診断、治療、予後、緩和ケアなどについてパネルで解説されていました。



最後に出口の所で、生命保険会社の展示がありました。

これがまたインパクト強い！子どもたちの絵。それは「がん」や「白血病」におかされた子どもたちが描いた絵なのです。享年3歳の子が3歳の時に描いた絵。享年8歳の子が6歳のころに描いた絵などが展示されていたのです。とても緻密な線画がありました。享年15歳の子がその死の2ヶ月前に描いた絵でした。

でも、中にはこんなコメントもありました。7歳の子が6歳の頃に描いた絵。添えてあるパネルに、その子が今を生きていました。「今、元気で学校に通っています。一輪車の練習をがんばっています。」

最初に書いたドラマや本で見る死にゆく少女の物語やストーリーが、やはり実際にありました。子どもたちの命を奪い、人生を「享年」で終わりにしてしまった敵の形を見た後、やはりあるのは、病でなくて、人。そして「生」。最後には、やはり、この「物語」に戻っていくのかもしれない。

また会場では、毎日 AED の講習会を実施していました。救急救命士の学校の学生さんたちが指導をしてくれていました。最初にご紹介した「腹腔内視鏡下手術」の体験もなかなかおもしろかったです！大腸がんなどの手術でお医者様が実際に使用する鉗子を使って、腹腔鏡下の手術を模擬体験することができちゃいました。

・・ということで、“見る・知る・触る・体験する、そして解る”をコンセプトにした展示、プロデューサーの構成のうまさという意味でもなかなか見ごたえのある、楽しめる展示会でした。

以上、山本百合子の見学日記でした。



山本さん、ありがとうございます。展覧会帰りの山本さんの「すごかったの～」という声に、ぜひにと寄稿をお願いしました。

既に全国での3大疾病展は終了していますが、今回の展示内容についての公式ガイドブックが判りやすいムックとして出版されています。本号の「素敵な Books」p15では「3大疾病の教科書」をご紹介＆プレゼント！